

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

番号	運営目標	ページ
1	日本文化を継承、創造し、世界に発信する「文化首都・京都」の実現に向け、日本の文化行政をリードします。	1
2	「ほんまもん」の文化芸術を深め、次世代への継承を図ります。	4
3	【北山文化環境ゾーン】「京都学・歴彩館」や植物園、府立大学などが一体となった文化・学術・環境の交流発信拠点形成を着実に進め、多様な京都文化の魅力を内外に発信します。	6
4	生涯学習拠点として、府立ゼミナールハウス（あうる京北）の魅力をPRし、利用促進を進めるとともに、ICTを活用した生涯学習環境の充実を図ります。	7
5	京都の有する優れた文化価値を内外に力強く発信するため、地元市町村とも連携し、天橋立の世界遺産登録に向けた取組を推進します。	8
6	スポーツ活動の拠点となる施設整備を進め、あらゆる府民がスポーツに親しみ、生きがいを感じ健康づくりに取り組む中で、トップアスリートを生み出していく「スポーツ王国・京都」の実現を図ります。	8
7	私立高校生が安心して修学できるよう修学支援を推進するとともに、私立学校の特色・魅力づくりや経営改革への取組を支援します。	10
8	私立幼稚園において地域の子育て支援と特色ある幼児教育活動、教員の資質・専門性の向上を支援します。	12
9	文化首都・京都が世界に誇る文化財の保護と活用を進め、次世代への継承を図るとともに、社寺などと連携を深め、文化行政を発信します。	13
10	「総合教育会議」により、知事部局と教育委員会が教育等の課題を共有し、その解決に向けて連携して取り組みます。	14
11	京都の成長戦略の核となる大学の資産を活かし、大学・学生の力を活かした地域の活性化など、ともに成長・発展する「京都のまるごとキャンパス化」に取り組みます。	14
12	府立医科大学及び府立大学における教育・研究・医療の充実や地域貢献の推進を図るため、京都府公立大学法人第二期中期目標に基づき、施設整備や機能強化を図ります。	15

運営目標数	12
うち数値目標	11

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標

1 日本文化を継承、創造し、世界に発信する「文化首都・京都」の実現に向け、日本の文化行政をリードします。

達成手段
(数値目標)

(1)文化庁が移転する「文化首都」にふさわしい文化行政の方向性を示します。

- 日本の文化・芸術・学術を代表する京都府文化賞受賞者による「京都文化芸術会議」から提言を受け、新しい文化行政を進めます。
 - ・ 京都文化芸術会議を開催し、文化庁移転を踏まえた新たな文化行政のあり方を提言
 - ・ 文化賞受賞者によるフォーラムの開催<1回(28年度新規)>
 - 海外でも活躍されている芸術家、文化人を「京都文化大使」に任命し、京都の文化の魅力を幅広く世界へ発信します。
<「京都文化大使」の任命 5人(28年度新規)>
 - 「京都学・歴彩館」において、内外の日本文化研究機関と連携し、京都文化の普遍的な価値を研究、発信します。
 - ・ 海外の日本文化研究機関との交流連携協定に向けた取組を推進
<交流連携協定締結 3件(28年度新規)>
 - ・ 国際京都学シンポジウムの開催<1回(27年度実績3回)>
- ①
- 関西における文化プログラムを実現する拠点としての機能を持つ文化庁文化芸術創造都市振興室(通称:関西分室)と連携し、日本版アーツカウンシル(西日本拠点)の創設を目指した、構想の策定を進めます。
 - かけがえのない府民・国民の財産である文化財をしっかりと守り、未来につなぐ取組を進めます。
 - ・ 知事部局と教育委員会が一体となったプロジェクトチームにより、文化財の保護・活用・継承を図るためのプランを策定

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標

- ・ 府指定文化財の拡充、府文化財保護審議会委員等外部識者が文化財保護施策に一層関与する体制づくりなどを推進
(府指定文化財の拡大、未指定文化財の修理等の支援<支援件数 120件(27年度実績 121件)>、国指定・府指定文化財の修理等への支援)
- ・ 「文化財を守り伝える京都府基金」の事業に賛同している社寺や文化財関連団体等をネットワーク化し、仏教会や神社庁等とともに文化体験プログラム等を充実し、「京都文化カプロジェクト2016-2020」において、寺院・神社等の文化財を拠点として、京都文化を発信する取組を実施するなど、文化財にふれあう機会を増加

(2)世界中の人々と協働し、新たな文化創造の潮流を起こしていきます。

- ②
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の国際的なムーブメントを高めるキックオフ事業であり、「京都文化カプロジェクト2016-2020」の幕開けとなる、「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」の京都開催を政府等と協働して成功させます。(10月)
 - ・ オープニング、文化プログラムのキックオフ会議、分科会、京都文化体験プログラム等を実施
<参加者数(京都会場):延べ3,000人(28年度新規)>
 - 「京都文化カプロジェクト2016-2020」事業を開始します。
 - ・ オール京都の実行委員会を立ち上げ、今後4年間にわたる具体的なイベントプログラムの実施計画を策定
 - ・ フォーラムやワークショップを開催し、府民や関係団体等に幅広く参画を呼びかけるとともに、気運を盛り上げ

(3)オール京都の文化創生の基盤づくりを進めます。

- 府内各地域で活動する文化芸術団体の活動を支援するとともに、これらの団体が参画する「京都府広域文化芸術ネットワーク」を新たに設置します。<支援団体数:20団体(28年度新規)>
- 世界博物館会議(ICOM)京都大会2019に向け、府内の博物館・美術館等(京都市以外想定70以上)が参画する、京都府ミュージアムフォーラム(仮称)を設立し、「京都学・歴彩館」等との連携による企画展示や研究交流を進めます。

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標

- ③
- 文化資源を活用した地域の創生を図るため、府内各地域を舞台とした国際的なアーティスト・イン・レジデンス(AIR)芸術祭の順次展開に向けプレ事業を実施します。
 - ・ 市町村と連携して、「文化の仕掛人」(アートコーディネーター)を設置(2名)し、アートによる地域資源の掘り起こしや、NPOや府民の文化資源を活用した活動を支援し、芸術祭の土壌づくりを実施
 - ・ 有識者会議の開催やアートディレクターの設置を行い、AIR芸術祭の企画・計画に向け、プレ事業を実施
<1ヶ所(28年度新規)>

 - 文化マーケットの創出をさらに強力に進めます。
 - ・ 「京都文化ベンチャーコンペティション」を商工労働観光部、京都商工会議所、文化関係団体等と連携して開催し、文化による起業に向けた取組を積極的に支援
<過去受賞者の海外への販路開拓支援として、国際交流基金との連携によるパリ日本文化会館へのカタログ設置等による市場開拓>
<応募者への支援:1次及び2次審査通過者への起業セミナー、個別相談会等の開催回数18回(27年度実績17回)>
<受賞者への支援:専門家派遣回数 35回(27年度実績 31回)>
<事業化・販路開拓支援件数 12件(27年度実績 10件)>
 - ・ 京都文化博物館等を会場とした「京都アートフリーマーケット」の開催を通じて、府民が若手芸術家のアート作品に身近に触れる機会を創出するとともに、運営に学生ボランティアを起用することで文化を担う人材を育成
<春・秋開催 計300ブース、75,000人(27年度実績 244ブース、73,453人)>
 - ・ 若手芸術家の育成を目的とした海外(ドイツ、フランス、香港等)の大型アートフェアへの出展支援の準備

 - 「あうる京北(京都府立ゼミナールハウス)」において、森の京都博の一環である「森の芸術祭」として、「森と芸術とひとの共生」をテーマに、生涯学習の成果の発表や森の美術展、けいほくらフト等を開催し(9月～11月)、地域文化の魅力を発信します。
<会期中の入場者数:10,000人(28年度新規)>

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標

2 「ほんまもん」の文化芸術を深め、次世代への継承を図ります。

(1)次世代を育み、文化の継承を図ります。

- 有識者等による協議会(文化の知恵袋)を設け、教育委員会との連携のもと、優れた人材を学校や地域に派遣し、児童、生徒が優れた文化・芸術を体験・理解するとともに、地域の文化創造活動に参画することができる機会を拡充します。
＜次世代が学校又は文化会館等で体験する文化活動事業数 75件(27年度実績 74件)＞
- 次世代の文化を担う高校生の憧れや希望、目標の場となるとともに、全国の高校生の交流の場となる「全国高校生伝統文化フェスティバル第5回記念大会」及び「第3回全国高校生茶道フェスティバル」を開催します。
＜観覧者・参加生徒等数 約3,300人(うち京都府以外からの出場生徒等 590人)(27年度実績 約3,200人(587人))＞
 - ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、日本の伝統文化に若い世代が取り組む姿を世界に向けて発信するため、プログラムの多言語化や、留学生等の観覧招待・交流を実施
- ①
 - ・ 60分テレビ番組の全国放映に取り組むなどマスメディアへの働きかけ、全国への発信力を充実
＜1件(27年度実績1件:30分番組)＞
- 「古典の日」の精神を京都から普及するため、古典に親しみ、次世代へとつないでいくための取組を推進します。
 - ・ 古典の日推進委員会等と協働し、源氏物語をテーマとした古典の日や全国朗読コンテスト等を実施
 - ・ 古典の日推進委員会や関西広域連合と連携し、「古典の日」を普及啓発
 - ・ 「古典の日フォーラム」をはじめ、「古典の日に関する法律」の精神を踏まえた国主催事業が全国展開されるよう、国に対する要望を実施
- 京都文化の魅力を発信し、次世代の育成、継承を図るとともに、「ほんまもん」の文化芸術に触れる機会を創出します。
 - ・ 古典芸能、舞台芸術、音楽などの若手芸術家が参加し、青少年が優れた文化・芸術に触れる機会を創出
＜文化施設等における古典芸能、舞台芸術等の実施数 55件(27年度実績 54件)＞

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標

達成手段
(数値目標)

- (2)「ほんまもん」の文化芸術を深め、文化の裾野を拡大します。
- 累計入場者数50万人を達成した堂本印象美術館について、門から玄関へのアプローチ改良、セルフカフェの設置などのエントランス等の機能向上や更なる発信力強化等を図るリノベーション工事を実施します。
(創立50周年事業)
 - ② ○ 京都を拠点に活躍する若手美術作家による新鋭選抜展を開催し、次世代の芸術家を育成します。(1～2月)
<新鋭選抜展入場者数 25,000人(27年度実績 24,983人)>
 - 京都が誇る伝統文化「いけばな」をアピールする京都新世代いけばな展を開催し、若手華道家の育成及び華道の振興を図ります。(平成28年11月予定)
<入場者数:6,500人(26年度実績 6,390人)>
 - 京都彫刻家協会との共催による野外彫刻展を府立植物園で開催し、府民の彫刻への関心を深め、京都の彫刻芸術の振興を図ります。(平成28年10月予定)
<入場者数:45,000人(27年度実績 44,347人)>
 - 府立の文化施設を運営・活用し、優れた文化芸術の創造活動を展開するとともに、文化芸術情報の発信、府民の文化芸術の鑑賞の機会や府民の文化活動の場を提供します。
<京都文化博物館の総入館者数 97万人(27年度実績 953,239人)>
<京都府立文化芸術会館の総入場者数 18万人(27年度実績 175,283人)>
<京都府立府民ホールの総入場者数 7万人(27年度実績 67,882人)>
 - 伊藤若冲生誕300年を記念した講座等を開催します。
 - ・ 資料館等での講座<1回(28年度新規)>
 - ・ 植物園での展示会(児童作品展「子どもの目ー若冲と植物」)等の開催 (5月) <1回(28年度新規)>
 - 府庁日本館を中心に、府民協働により、近隣の歴史的建造物の公開や個性ある美術工芸展・文化体験などを実施する「府庁界隈まちかどミュージアム」を開催します。
<入場者数:18,000人(27年度実績 17,582人)>
 - 障害者の文化芸術活動を支援します。
 - ・ 「きょうと障害者文化芸術機構」の運営に協力・支援するとともに、森の芸術祭において「あうる京北」での障害者芸術展を開催

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標

3

【北山文化環境ゾーン】「京都学・歴彩館」や植物園、府立大学などが一体となった文化・学術・環境の交流発信拠点形成を着実に進め、多様な京都文化の魅力を内外に発信します。

①

「京都学・歴彩館」のオープンに向けて準備を進めます。

- ・ 京都文化の研究・発信や府民の学習の場の提供など、その機能を総合的に発揮できるよう、「京都学・歴彩館」を竣工させます。(7月)
- ・ 平成28年中の一部オープン(1階 交流フロア(京都学ラウンジ、大ホール、小ホール、展示室等)、平成29年度夏頃までのグランドオープンに向けた準備を進めます。

②

「京都学・歴彩館」と周辺施設との連携・交流を図るため、植物園の北泉門(仮称)及び広場・プロムナードの整備を進めます。

約1万2千種の植物を育成栽培する「府立植物園」の魅力を高め、日本一おもしろい・心安らぐ植物園をコンセプトに、府民のいこいの場、教養の場としてその充実を図ります。

③

- ・ 植物園東側に、北山文化環境ゾーンの回遊性を高める北泉門(仮称)を新たに整備 【再掲】
- ・ 日本一の植物園にふさわしい自然と調和し緑を活かした、植物殿堂館機能を含めた正門周辺の整備に向けた準備作業を推進
- ・ 「府立陶板名画の庭」と連携したマルシェなどの協働事業を通じた新たなふれあい・交流空間づくりを推進
- ・ 関係団体等との連携や民間のアイデア・手法を活かした多彩なイベントの開催
京都さくらよさこい(4月)、花と緑の園芸フェスティバル(5月)、植物園マルシェ(8月)、府民ガーデニングコンテスト(10月)、京都マラソン植物園周遊(2月) 等
- ・ 4園館(植物園、動物園、水族館、青少年科学センター)連携による次世代に向けた自然科学事業の展開

<植物園入園者数	90万人(27年度実績 88.3万人)>
<陶板名画の庭入園者数	7万人(27年度実績 6.2万人)>
- ・ 海外の植物園との交流連携を通して、世界の先進事例に学び、さらなる魅力づくりを推進
(シンガポール2植物園との連携による展示技術やラン栽培技術の導入)

達成手段
(数値目標)

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標

	④	<p>「北山文化環境ゾーン交流連携会議(北山ぱーとなーず)」の活動を通して、文化・芸術を身近に感じることのできる新たなエリアデザインを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元学生によるロゴマークやキャッチコピー、イラストマップなどを活用したエリアブランド戦略の展開 ・ SNS等を活用したエリア情報の発信強化 ・ 「北山月間」(11月)などメンバーの連携協働によるさまざまな交流事業の展開 ・ 北山の魅力向上・活性化課題に係る調査研究と成果を発信する「北山デザイン会議」の開催(年3回)
	⑤	<p>「北山未来構想委員会(平成28年1月設置)」において、現資料館跡地の活用・整備を含む北山文化環境ゾーンの構想案を策定します。</p>

4 生涯学習拠点として、府立ゼミナールハウス(あうる京北)の魅力をもPRし、利用促進を進めるとともに、ICTを活用した生涯学習環境の充実を図ります。

	①	<p>生涯を通じた、府民の生きがいづくりや学んだ成果を地域社会へ生かすという視点から、生涯学習の新たなあり方の検討や府立ゼミナールハウスや「京都学・歴彩館」等の生涯学習拠点としての充実等に向けて、アクションプランを策定します。</p>
	②	<p>生涯学習拠点施設である「あうる京北(京都府立ゼミナールハウス)」において、森の京都博の一環である「森の芸術祭」として、「森と芸術とひとの共生」をテーマに、生涯学習の成果の発表や森の美術展、けいほくクラフト等を開催し、(9月～11月)、地域文化の魅力を発信します。【再掲】 <会期中の入場者数: 10,000人(28年度新規)></p>
達成手段 (数値目標)	③	<p>「京都学・歴彩館」が、新たな府民の生涯学習の場としての役割を担えるよう、シンポジウムや連続講座等の開催、所蔵資料のデジタル発信を行うなど、京都学の蓄積を広く府民に還元する取組を進めるとともに、府民等の研究成果の発表の場を提供します。 <シンポジウムの開催 1回(27年度実績 3回)> <連続講座の開催 2回(28年度新規)> <共同研究会の研究成果の出版 28年度洛北編></p>
	④	<p>生涯学習推進ネットワークの協力を得ながら、インターネット放送局の生涯学習講座の内容を充実し、学習意欲を高め、受講者数の増加を図ります。 <新講座数: 5講座(全115講座)、受講者: 6,000件(27年度実績 5,058件)></p>

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標

5	京都の有する優れた文化価値を内外に力強く発信するため、地元市町村とも連携し、天橋立の世界遺産登録に向けた取組を推進します。
達成手段 (数値目標)	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 天橋立の世界遺産登録暫定一覧表への登録に向けて、平成26年7月に文化庁へ提出した提案書を補完し、世界文化遺産として国際的に認められる価値(顕著な普遍的価値)を有することを証明するため、天橋立の砂州や松並木の保全への人々の関わり方や、信仰の歴史などについて新たに調査・研究を行います。 ○ これまでの調査研究の成果や地元での活動を取りまとめた報告書を出版し、天橋立の普遍的な価値の理解促進に取り組みます。 ○ 天橋立の価値を広くPRするためのシンポジウムを開催します。<1回(27年度実績1回)>
6	スポーツ活動の拠点となる施設整備を進め、あらゆる府民がスポーツに親しみ、生きがいを感じ健康づくりに取組む中で、トップアスリートを生み出していく「スポーツ王国・京都」の実現を図ります。
	<p>(1)スポーツ活動の拠点となる施設の整備を進め、府民の方が気軽にスポーツが出来る環境を整備します。</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の振興・活性化とアユモドキ保全活動の好循環を実現する京都スタジアム(仮称)の整備を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ スタジアムの実施設計を行い、早期の着工に向けて、事業を進めます。 ・ 環境保全専門家会議の指導のもと、国と亀岡市等と連携して、アユモドキの生息環境の保全・改善対策等を推進します。 ・ 「京都スタジアム(仮称)運営経営専門家会議」において、収益の確保や効率的な運営、地域のにぎわいの創出の観点からのスタジアムの運営計画を策定します。 ○ 丹波自然運動公園において、「京都トレーニングセンター」を28年夏までにオープンするとともに、今年度内に陸上競技場の第2種公認(広域的な競技会が開催可能)を得るため、必要な整備を進めるほか、クロスカントリーコースの整備に着手します。

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標

		<ul style="list-style-type: none"> ○ 市町村が行う広域的・基幹的及び準広域的・準基幹的なスポーツ施設の整備を支援し、府域を見渡したスポーツ施設整備を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> <支援先: 3市町(京都市(西京極陸上競技場)・福知山市(三段池公園テニスコート)・大山崎町(体育館)>
達成手段 (数値目標)	②	<p>(2)2020年東京オリンピック・パラリンピック等に向け、国際大会や合宿地の誘致を進めるなど、府民のスポーツへの関心・意欲の向上や、競技力の向上、スポーツを通じた地域の交流を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 島津アリーナ京都における、国際的・全国的なスポーツ大会<6件(27年度実績 5件)>の開催を増やすとともに、中・長期的な視点を持って、国際大会等の継続した開催に向けて誘致活動を展開し、一流のプレーを通じて府民の皆様に夢や希望、感動を与える機会を提供します。 ○ 市町村や関係団体と協力し、ホストタウンの登録を進め、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた合宿地やスポーツを通じた国際交流事業等の誘致、2021年関西ワールドマスタースゲームズの開催誘致にオール京都体制で取り組みます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン登録に向け、競技団体や府や市町村の友好提携都市等を通じて相手国へ働きかけるとともに、リオデジャネイロ・オリンピック・パラリンピックへ職員を派遣し、現地で具体的に競技団体や参加国に誘致のプロモートを実施します。 <ul style="list-style-type: none"> <ホストタウンの登録市町村数 5市町村(27年度実績 1市町村)> ・ 2021年関西ワールドマスタースゲームズの開催希望市町村での開催実現に向け、組織委員会への働きかけ(開催計画のブラッシュアップ)等を強化します。
		<ul style="list-style-type: none"> ○ ツアー・オブ・ジャパン京都ステージや京都丹波トライアスロン大会を開催し、スポーツを通じた地域の交流を促進します。 <ul style="list-style-type: none"> <ツアー・オブ・ジャパン京都ステージの観客数 30,000人(28年度新規)> <京都丹波トライアスロン大会:参加選手 300人、観客数 7,000人(27年度実績 参加選手 261人、観客数 6,000人)>
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 「京都トレーニングセンター」におけるジュニアアスリートの医科学的なトレーニング指導による、ジュニアアスリートのサポート体制を構築し、利用促進に努めます。 <ul style="list-style-type: none"> <京都トレーニングセンターの利用者数 9,000人(28年度新規)>

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標

- 障害者スポーツ振興アクションプランに基づき、障害のある方のスポーツへの参加機会の拡大や競技力向上のための環境整備を進めます。(27アクションプラン策定)(健康福祉部共管)
 - ・ サン・アビリティーズ城陽における障害者スポーツの拠点機能を強化(空調設備等の整備)するとともに、パラリンピック競技別ナショナルトレーニングセンターを誘致します。
 - ・ 車いすランナーの練習場所の候補地を選定します。
- オリンピック・パラリンピックや世界選手権等で活躍した京都ゆかりのトップアスリートを府内の学校や府立スポーツ施設等に派遣する「京のスポーツ夢バンク」について積極的にPRするとともに、子どもたちがスポーツを通じて「夢」や「希望」を持てるよう、バンク登録者や体験事業実施数を拡大します。
 <バンク登録 120人、事業実施数 30事業(27年度実績 115人、24事業)>
- スポーツを通じた健康や生きがいづくりに向けて、府民総体のマスターズ部門の拡充により、高齢者等を含めたスポーツへの参加意欲を促進します。(教育委員会共管)
 <府民総体のマスターズ部門の開催種目数 19種目(27年度実績 13種目)>

7

私立高校生が安心して修学できるよう修学支援を推進するとともに、私立学校の特色・魅力づくりや経営改革への取組を支援します。

①

京都府こどもの貧困対策推進計画を踏まえ、私立高校生が経済的事情で学業を断念することがなく、安心して修学できるよう修学支援を推進します。

- ・ 国に対して、政策提言の実施等により、高等学校等就学支援金の拡充や新たな支援制度の創設を積極的に要望するとともに、あんしん修学支援事業の安定的な運営を図るため、制度を再構築
- ・ 非課税世帯の修学支援を充実するため、「奨学のための給付金」の単価を増額
- ・ 京都府高等学校修学金(貸付金)の滞納を減らし、制度を持続可能なものとするため、制度の仕組みなどを示したマニュアルや資料を作成し、各学校と連携して、在学時における生徒指導・制度周知を徹底し、滞納の未然防止を徹底
 <私立高校の経済的理由による中退者を無くします。>

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標

達成手段 (数値目標)	②	<p>体罰、いじめ、中退、不登校事案の減少・根絶や、子どもたちの自立に向けた取組を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもを取り巻く状況を学校全体で情報共有するなど、チームとして組織的に対応 ・ 京都府いじめ防止基本方針に基づき、「京都府いじめ調査委員会」、「京都府いじめ問題対策連絡会議」において情報共有・意見交換、啓発等を行い、関係機関(教育委員会、いじめ問題対策連絡会議等)が連携して、オール京都体制でのいじめ防止対策を推進 ・ 京都府私学修学支援相談センターが実施する保護者・生徒への相談や、不登校者に対する学習支援・居場所づくりの取組を支援 ・ いじめの未然防止、早期発見・解決のため、私立学校(小・中・高)に対するネット監視事業やスクールカウンセラーの設置補助により、学校におけるいじめ防止の取組を支援 ・ 京都ジョブパークと連携し、経営者団体・経済団体に対して、各企業における高校生の採用要請を行うなど、私立高校生の就業支援や就労後の定着支援を実施
	③	<p>京都府公立高等学校協議会において、少子化の影響を見据えて協議し、これからの京都の教育における公私連携を強化します。</p> <p>また、今後の子どもの減少期を見据えた、私学の一層の特色づくりや経営改革について研究する機関を、学校・関係団体等と設置するとともに、研究協議の中で経営改革推進支援事業の支援校をケーススタディとして本事業と一体的に取り組むこととします。</p>
	④	<p>私立学校(小・中・高)の耐震改修を促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 耐震診断や耐震改修・改築等の国助成制度及び府上乗せ助成の周知、耐震化事業計画・補助金制度等に関する相談を行い、全施設の耐震化を目指して、私立学校(小・中・高)の耐震化を促進 <p style="text-align: center;">＜小・中・高の耐震改修率 90%(27年度実績 86.3%)＞</p>

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標

8	私立幼稚園において地域の子育て支援と特色ある幼児教育活動、教員の資質・専門性の向上を支援します。	
達成手段 (数値目標)	①	<p>多様なライフスタイルや女性の活躍に対応した、総合的な子育て支援施策を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未入园児一時保育事業(地域の子育て家庭の育児や幼児教育の相談、幼稚園と地域の非営利団体が連携した保育・体験学習の実施等)を充実し、地域の子育て力を強化 <全幼稚園148園(27年度実績 130園)> ・ 保護者のニーズに合わせ、正規の時間外に幼児教育の一環として行う預かり保育や、長期休業預かり制度を充実 <全幼稚園148園(27年度実績 143園)>
	②	<p>私立幼稚園連盟と連携し、教員の資質・専門性の向上、特色ある幼児教育活動を促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キンダーカウンセラー等の専門職員の加盟園への派遣を通じて、幼児教育の質の向上と家庭での子育て支援を推進 <70園(27年度実績 67園)> ・ 園児大会を開催し、園児の交流を広げ、幼児の健やかな成長と私立幼稚園の振興を推進 <府内5地区(27年度実績 5地区)> ・ 教員研修を実施し、教員の資質・専門性を向上 <新採教員研修会・人権教育研修会の実施12回(27年度実績 12回)>
	③	<p>私立幼稚園の耐震改修を促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 耐震診断や耐震改修・改築等の国助成制度及び府上乗せ助成の周知、耐震化事業計画・補助金制度等に関する相談を行い、全施設の耐震化を目指して、私立幼稚園の耐震化を促進 <幼稚園の耐震改修率 70%(27年度実績 65.1%)>
	④	<p>「子ども・子育て支援新制度」を踏まえ、各幼稚園ごとの理念に応じた教育環境と保護者の選択権の確保、教育担当部局の関わりでの明確化等、地域の課題・実情に応じた制度の運用に向け、「新制度問題等検討会」での検討、市町村・関係団体・関係課との連携、文部科学省への要望等、各幼稚園を支援し、幼児の健全な育成と幼児教育の振興を図ります。</p>

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標

9 文化首都・京都が世界に誇る文化財の保護と活用を進め、次世代への継承を図るとともに、社寺などと連携を深め、文化行政を発信します。

かけがえのない府民・国民の財産である文化財をしっかりと守り、未来につなぐ取組を進めます。

- ・ 知事部局と教育委員会が一体となったプロジェクトチームにより、文化財の保護・活用・継承を図るためのプランを策定【再掲】
- ・ 府指定文化財の拡充、府文化財保護審議会委員等外部識者が文化財保護施策に一層関与する体制づくりなどを推進【再掲】
(府指定文化財の拡大、未指定文化財の修理等の支援<支援件数 120件(27年度実績 121件)>、国指定・府指定文化財の修理等への支援)
- ① ・ 「文化財を守り伝える京都府基金」の事業に賛同している社寺や文化財関連団体等をネットワーク化し、仏教会や神社庁等とともに文化体験プログラム等を充実するとともに、「京都文化カプロジェクト2016ー2020」において寺院・神社等の文化財を拠点として、京都文化を発信する取組を実施するなど、文化財にふれあう機会を増加【再掲】
- ・ ふるさと納税を積み立てる「文化財を守り伝える京都府基金」について、寄附件数・金額の増加を図るため、仏教会、仏教連合会、神社庁等と連携し、基金を活用した府の取組内容や、支援を受けた社寺等のメッセージ、同意を得た賛助者・団体・企業名を公表するなど、府のホームページ等でPRを進めるとともに、伝統工芸体験の追加などの寄附に対する返礼を充実し、個人や企業へ寄附を積極的に呼びかけ
<寄附目標 5,000万円(27年度実績 1,000万円)、協力団体等 200件(27年度実績 182件)>
- ・ 企業版ふるさと納税の活用など、文化財の保護・継承のための更なる財源確保に向けて検討

② ・ 宗教法人が不活動状態に至らないために法人毎の対策を検討し、指導・相談を実施
<15法人(27年度実績 15法人)>

・ 不活動状態にある宗教法人の整理を実施

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標

10	<p>「総合教育会議」により、知事部局と教育委員会が教育等の課題を共有し、その解決に向けて連携して取り組みます。</p>	
達成手段 (数値目標)	①	<p>「京都府の教育等の振興に関する大綱」に基づき、貧困や薬物乱用等の様々な問題や、文化の継承・活用やスポーツ、生涯学習の環境づくりなどに対して、知事と教育委員会が基本的な認識を共有し、連携を密にして、一体となり、施策を推進するとともに、家庭、地域、市町村、学校、各種団体、専門機関等が連携してオール京都体制で、子どもたちの教育環境の整備に取り組みます。</p>
11	<p>京都の成長戦略の核となる大学の資産を活かし、大学・学生の力を活かした地域の活性化など、ともに成長・発展する「京都のまるごとキャンパス化」に取り組みます。</p>	
達成手段 (数値目標)	①	<p>「1まち1キャンパス事業」を通じ、大学のキャンパスだけでなく、地域を学びの場とする大学の活動を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学と市町村との連携事業数<15プログラム(28年度新規)> ・ 市町村大学生等受入施設整備数<15力所(28年度新規)>
	②	<p>「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)」及び大学間連携共同教育推進事業への参画等を通じ、地域で活躍できる人材の育成を充実します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ COC+事業を通じて京都について学ぶ学生数 <延べ5,000人以上(27年度実績 延べ4,937人)> ・ 地域で活躍できる人材育成のための資格制度(地域公共政策士、グローバルプロジェクトマネージャー(GPM))の充実 <ul style="list-style-type: none"> <資格取得者数 地域公共政策士 120人/GPM 30人(28年度新規) (27末現在の資格取得者数 地域公共政策士(27)~)38人 GPM(27)~)0人)> ・ 大学との連携協定の推進<協定締結 新規2大学(累計8大学) (27年度実績 2大学(累計 6大学)>
	③	<p>「大学のまち・京都」の強みを活かし、大学の「知」を結集し、文化・教育・研究活動を活発化するためのプラットフォームの設置について検討します。</p>
	④	<p>ホームページ等を通じた情報発信等により、キャリアアップや社会貢献、学び直し等様々な目的で大学に再入学する社会人の増加を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人入学者の増加<1,000人(27年度実績 930人)>

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標

京都学生祭典を通じ、「大学のまち・京都」の魅力を広く発信します。

⑤

- ・ 参加学生数の増加<1,600人(27年度実績1,544人)>
- ・ 地域との連携、交流活動の充実<交流活動回数 350回(27年度実績 327回)>
(第40回全国育樹祭プレイベント、中丹広域振興局での小中高校生と大学生のコラボ企画への参加)
- ・ 芸術系大学と連動した広報媒体の製作や音楽パフォーマンス等の実施

12

府立医科大学及び府立大学における教育・研究・医療の充実や地域貢献の推進を図るため、京都府公立大学法人第二期中期目標に基づき、施設整備や機能強化を図ります。

①

総合的に物事を判断できる能力と豊かな人間性を有する学生を育成するため、教養教育共同化施設を拠点に平成26年度から全国初の取組として開始した3大学(府立医科大学、府立大学、京都工芸繊維大学)による教養教育共同化を推進します。

- ・ 教養教育科目数(共同化前後で2~4.9倍増加)と共同化科目履修登録者数(平成27年度6,637人)の拡大
- ・ 三大学学生の参加による京都の歴史的・地理的特性を活かした宿泊型研修(1回)を実施
- ・ これまでの成果を踏まえ、3大学において、「現代の大学教育において求められる教養教育」に関する提言を取りまとめるとともに、それらに関するフォーラムを実施(教養教育「京都モデル」の発信)

②

府立医科大学附属病院において、「世界トップレベルの医学を府民の医療へ」をモットーに、機能強化ビジョンを順次進め、陽子線等による最先端のがん治療や安心して産み育てられる環境づくりなど、医療提供体制の強化を図ります。

- ・ 府内初の陽子線治療施設となる永守記念最先端がん治療研究センターの平成29年度完成・早期運用に向けて、人材育成・確保や治療費助成の制度の検討
- ・ 地域で安心して産み育てることができる周産期医療提供体制確保に向けて、晩婚化等に伴うハイリスク出産に対応した「母子・胎児集中治療室(MFICU)」の実施設計
(平成29年度施設整備、平成30年度供用開始目標)
- ・ 附属病院の施設の中で緊急に整備が必要な手術室、集中治療室等について、早期に具体的な整備を推進

平成28年度 文化スポーツ部 運営目標

運営目標

達成手段 (数値目標)	<p>③ 府立医科大学附属北部医療センターが、北部地域における中核病院や医学教育・臨床研究の拠点としての役割を果たすため、医療提供体制の強化を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「北京都安心医療拠点整備検討会」の提言を踏まえた、計画的な整備を進めることとし、がん診療の早期強化を図るため、「がん診療棟(仮称)」について、整備を検討 ・ 医師確保対策(医学生(地域枠)の受入環境の整備、研究・指導・教育環境の整備、住環境や待遇面の充実など)の推進
	<p>④ 府立大学の下鴨・精華両キャンパスのあり方について、高度で質の高い教育・研究環境を確保し、地域に貢献する大学としてその役割を果たしていくため、27年度に引き続き「府立大学基本構想委員会」及び外部有識者を含む「府立大学基本構想委員会専門家会議」において、具体的な整備計画を策定します。</p>
	<p>⑤ 民間との連携による和食文化の保護・継承を図るため、府立大学における平成31年4月を目指した和食文化学科(仮称)開設準備及び学問体系の構築に係る調査・研究等に対して支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学問体系の構築等に係る調査・研究<平成27年度に引き続き専門家会議を開催(4回)(27年度実績 3回)> ・ 学科開設に向けた、学部の枠組みを超えた学際的な教育プログラムの提供 (「和食の文化と科学」プログラムの継続実施、新たに「食文化原論」、「和食文化論」等の科目を開講) ・ 高等教育機関の設置認可申請の準備(設置計画の検討、文部科学省への事前協議) ・ 「和食文化の大学コンソーシアム(仮称)」設立に向けた、関連大学・研究者・民間企業等との準備協議
	<p>⑥ 府内各地域の様々な課題の解決に向けて、市町村、住民団体等と共同して調査・研究を行う「地域貢献型特別研究(府大ACTR)」について、より地域のニーズに即したものとなるよう、研究テーマの選定方法等を見直し、調査研究活動を強化するとともに、その成果をホームページや「京都学・歴彩館」などを会場とした成果発表会により広く情報発信します。<調査研究活動件数 20件></p>